JZ

PCP-1200 プリン写ル 取扱説明書 応用編

保証書付（裏表紙）

本書では、プリン写ルの各機能についてくわしく説明しています。

●操作を始める前に、別冊の「入門編」をご覧ください。
●ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

●本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

安全上のご注意

このたびは、本機をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本書はお読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
⚠警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。（左の例は感電注意）

⃠記号は「してはいけないこと」を意味しています。（左の例は分解禁止）

●記号は「しなければいけないこと」を意味しています。（左の例はプラグをコンセントから抜く）

⚠ 警告

煙、臭い、発熱などの異常について

煙が出ている、へんな臭いがする、発熱しているなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. ACアダプターをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。
次のことは必ずお守りください。

- 必ず付属品を使用する
- 電源は、AC100V(50/60Hz)のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 重いものを乗せたり、加熱しない
- 加工したり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない
- 電源コード／ACアダプターのプラグが傷んだらお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する

⚠ 警告

ACアダプターについて

- 濡れた手でACアダプターやプラグに触れないでください。
  感電の原因となります。
- ACアダプターは水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。
- ACアダプターの上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

水、異物はさける

水、液体、異物(金属片など)が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。
内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

袋をかぶらない、飲み込まない

本機が入っていた袋をかぶったり、飲み込んだりしないでください。
窒息の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。
破裂による火災・けがの原因となります。

インクおよびプリントカートリッジについて

- インクが目に入ったり皮膚に付着しないようにご注意ください。
  目に入ったり、皮膚に付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。
  万一、異状がある場合は、直ちに医師にご相談ください。
- インクを誤って飲まないようにご注意ください。
  インクの成分には、硝酸塩が含まれております。万一、インクを飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- プリントカートリッジは、お子さまの手の届かない所に保管してください。
- プリントカートリッジは、改造および再利用しないでください。

⚠ 注意

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。
次のことは必ずお守りください。

- ストーブ等の熱器具に近づけない
- プラグを抜くときは、ACアダプターのコードを引っ張らない(必ずACアダプターを持って抜く)

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。
次のことは必ずお守りください。

- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 旅行などで長期間使用しないときはプラグをコンセントから抜く
- 使用後は本体の電源スイッチを切り、プラグをコンセントから抜く
- プラグは年1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように、乾いた布や掃除機で清掃する
- ACアダプター(特にプラグやジャック部分)の清掃には、洗剤を使用しない

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

置き場所について

本機を次のような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所

重いものを置かない

本機の上に重いものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

表示画面について

- 液晶表示画面を強く押したり、強い衝撃を与えないでください。
  液晶表示画面のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示画面が割れた場合、表示画面内部の液体には絶対に触れないでください。皮膚の炎症の原因となることがあります。
- 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低15分以上洗浄したあと、医師に相談してください。

大切なデータは控えをとる

本機やメモリーカードに記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理や電池消耗などにより、記憶内容が消えることがあります。

⚠ 注意

コネクター部への接続

メモリーカード挿入口などのコネクター部には、指定以外の物を接続しないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

- 権利者が存在する画像などは、個人として利用するほかは、著作権法上、その権利者に無断で使用できません。
- 紙幣、有価証券などの中には、その複写物を所有するだけでも罰せられるものもあります。

●登録商標・商標の表記について

以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

なお、本書(入門編含む)中には、以下の用語の™マーク、®マークを明記していません。

- ・コンパクトフラッシュは、米国およびその他の国におけるサンディスク社の商標または登録商標です。
- ・MEMORY STICK™、メモリースティック、メモリースティック デュオ、メモリースティック PRO、メモリースティック PRO デュオ、マジックゲートは、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
- ・miniSD、microSDは、SD Card Associationの商標です。
- ・SDHCロゴは、商標です。
- ・マルチメディアカードは、独Infineon Technologies AG社の商標です。
- ・xD-ピクチャーカードは、富士フイルム株式会社の商標です。
- ・スマートメディアは、(株)東芝の商標です。
- ・マイクロドライブは、HGSTの商標です。
- ・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- ・Microsoft、Excel、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・「筆まめ」は、株式会社クレオの登録商標です。
- ・「筆王」は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。

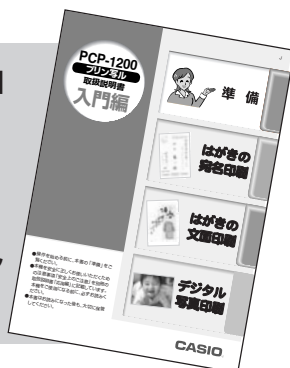
その他、本書(入門編含む)で使用している製品名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

テレビ・ラジオのそばでのご使用について

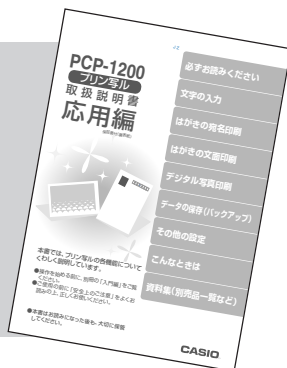
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、電池消耗等に起因する文章の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

こんなときは、どの説明書を読む？

- 使い始める前に準備しておくことを知りたい
- 宛名を登録して印刷したい
- はがきの文面を作って、印刷したい
- デジタルカメラで撮った写真を印刷したい

取扱説明書 入門編

本機の使いかたをイラストでわかりやすく説明しています。
すぐに写真やはがきの印刷をしてみたいというときに、お読みください。

- 文字の入力のしかたを知りたい
- 宛名面の作りかたについて知りたい
- 文面の作りかたについて、もっと知りたい
- デジタルカメラで撮った写真を印刷したい
- 機械の調子がおかしい?

取扱説明書 応用編(本書)

本機の機能をフル活用するための説明が載っています。
機能別に説明しているので、目次や索引で使いたい機能がすばやく探せます。

- どんなイラストやデザインがあるか知りたい

デザインカタログ

本機に内蔵されているはがきのデザインやイラスト・見出しが紹介されています。
「デザインカタログを見ながら選びましょう」と書いてあるときは、このカタログを見ながら選んでください。

目　次

##

やりたいこと目次

郵便はがき
1100008
東京都台東区池之端八ー三二
スターマンション一〇二
江口陽一様
静岡県磐田市新島二二ー四七
中山博
4380062
(再生紙)

・相田太郎様
香織様
〒102-0073 東京都千代田区九段北３６－４３
ベルデ九段６０７
０３－００００－００００
・青山雄一様
広美様
〒141-0031 東京都品川区西五反田８９－４１
０３－００００－００００
・伊藤次郎様
雅美様
〒110-0008 東京都台東区池之端
８－３－２
０３－００００－００００
・江口陽一様
知美様
〒110-0008 東京都台東区池之端８－３２
スターマンション１０２
０３－００００－００００
・江藤一樹様
優花様
〒134-003 東京都江戸川区○町４－５－６
０３－００００－００００
・加藤弘人様
由美様
〒192-8556 東京都八王子市◇町５－６－２
０３－００００－００００
・坂木次郎様
〒150-0000 東京都渋谷区○○町１－２－３
コーポ樫尾１１２
０３－００００－００００

A HAPPY NEW YEAR
今年もよろしくお願い致します
平成21年　元旦
〒253−0053
神奈川県茅ヶ崎市東海岸北３－１
シーサイドパレス１０２２
山　下　弘　人
真紀子
000−345−7890
yamashita-h@abc-prn.co.jp

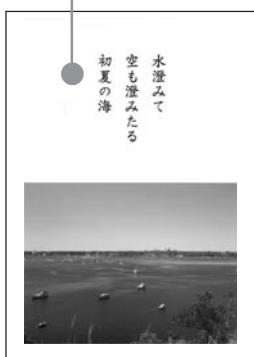
恭賀新年
昨年はお世話になりました。
今年もよろしくお願いします。
♪♪今度みんなで京都に行きましょう♪♪
平成二十一年　元旦

写真を印刷したい　161ページ

写真に文字や手書き、スタンプを入れたい
169ページ

写真の一覧を印刷したい　164ページ

写真をシールにしたい　180ページ

俳句を入れて写真を印刷したい
182ページ

写真を入れてカレンダーを印刷したい
193ページ

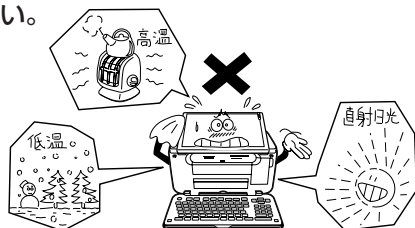
※「取扱説明書 応用編」の印字例や画面の内容などは、実際と多少異なることがあります。

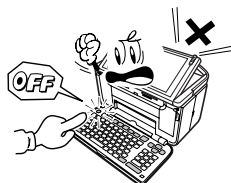
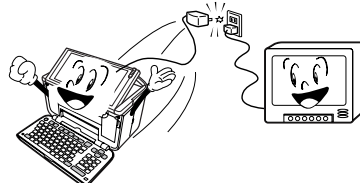
第 1 章

必ずお読みください

使用上のご注意

本機を末永くご愛用いただくために、以下の点にご注意ください。

使用温度範囲は5℃〜40℃(使用最適温度範囲:15℃〜35℃)です。気温の低い場所から暖かい室内に持ち込むと動作部に露がつき正常に動作しないことがあります。このときは1時間以上放置してからお使いください。
また、直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、静電気の発生しやすい場所での使用は避けてください。

長時間お使いになるときは、健康のため1時間ごとに10〜15分の休憩をとり、目および手を休めてください。

印刷中、登録・削除などの編集作業中、プリンター調整中などに電源を切らないでください。

テレビなどとは別の電源コンセントを使用し、テレビなどから遠ざけて使用してください。

電源を入れたまま長時間放置しないでください。表示輝度の劣化を生じることがあります。

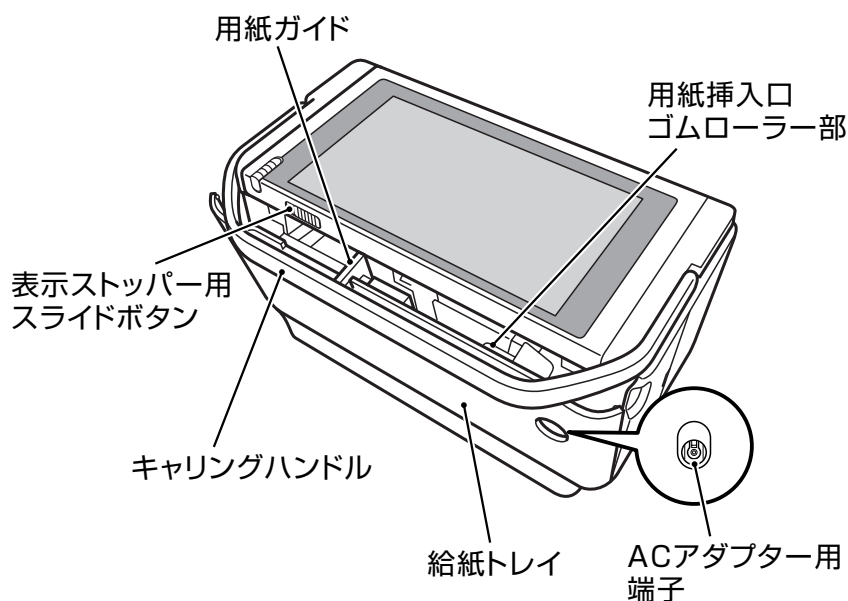
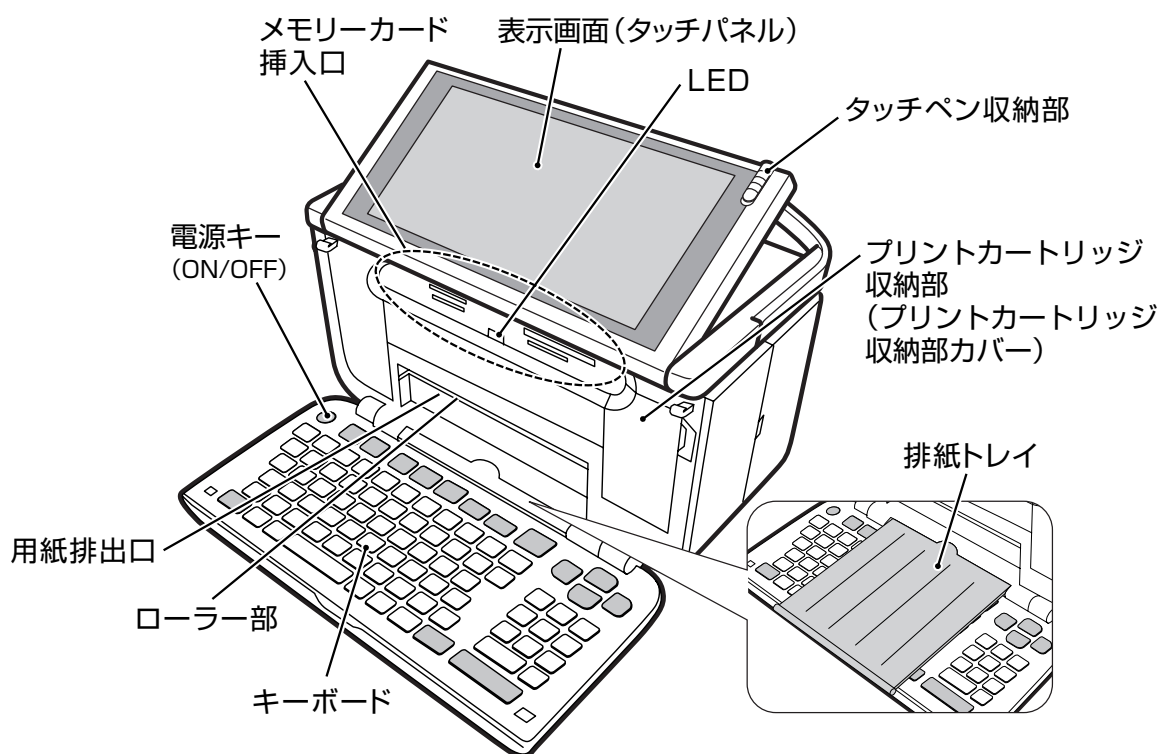
分解しないでください。

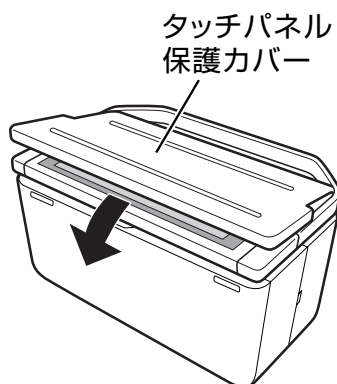
本機の上にものを乗せないでください。また落としたり強いショックを与えないでください。故障の原因になります。
特に表示画面(タッチパネル)の上にものを乗せないでください。

電源を切ったあと、表示画面が完全に消えるまでACアダプターをコンセントから抜かないでください。

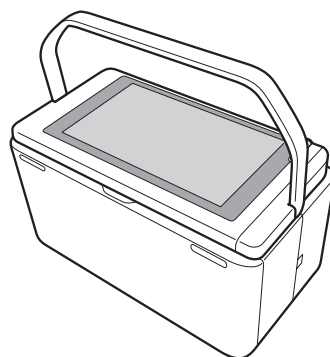
●印刷中は絶対に用紙挿入口のゴムローラー部および用紙排出口のローラー部に指を近づけないでください。
指がローラーに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
●本機を使用中、少し熱くなることがありますが、故障ではありません。

各部の名称

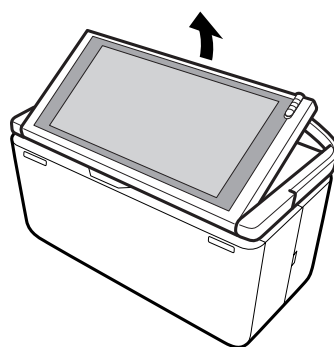
メモリーカード
挿入口
表示画面（タッチパネル）
LED
タッチペン収納部
電源キー
（ON/OFF）
プリントカートリッジ
収納部
（プリントカートリッジ
収納部カバー）
排紙トレイ
用紙排出口
ローラー部
キーボード

タッチパネル保護カバー

プリン写ルを使わないときは、タッチパネル保護カバーを装着して保管してください。タッチパネル保護カバーは、奥側を先に取り付けた後、手前側を取り付けます。

持ち運びのときは

本機を持ち運ぶときは、図のようにキャリングハンドルを引き上げてお使いください。

重 要 「可動範囲以上に動かそうとする」などの無理な力を加えないようにしてください。無理な力を加えると、故障や破損の原因となります。

表示画面の角度を調整する

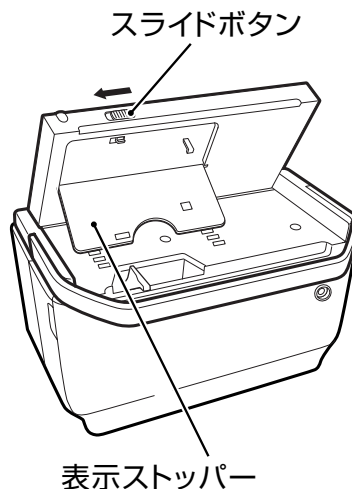
表示画面は、図のように調整することができます。見やすい角度に合わせてください。

重 要 「可動範囲以上に動かそうとする」などの無理な力を加えないようにしてください。無理な力を加えると、故障や破損の原因となります。

タッチペンを使用するときは、表示画面の角度を固定して使用することをおすすめします。

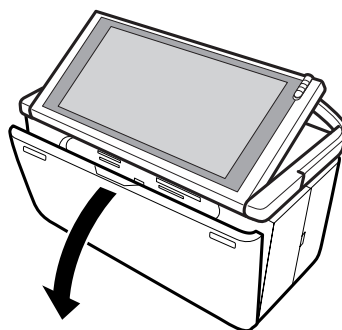
スライドボタンを矢印方向にスライドさせて、表示ストッパーを出し、使用しやすい角度に固定します。

● 表示画面(タッチパネル)について

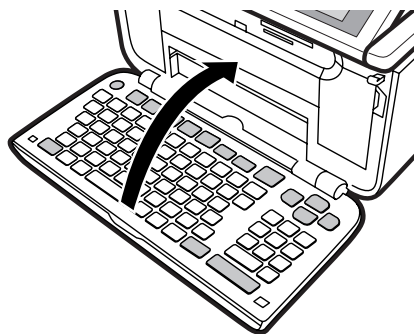
本機はタッチペンで表示画面(タッチパネル)にタッチして操作することができます。タッチするときは、力を入れる必要はありません。軽く触ってください。

- タッチパネルの表面を強く押したり、力を込めてタッチしたりしないでください。タッチパネルに傷が入ったり、割れたりすることがあります。
- タッチパネルの上にものを乗せないでください。故障の原因になります。

キーボードを開く

文字を入力するときなどは、本体上部を押さえながら、キーボードを開いてください。

「可動範囲以上に動かそうとする」などの無理な力を加えないようにしてください。無理な力を加えると、故障や破損の原因となります。

● キーボードを閉じるときは

キーボードを「カチッ」と音がするまで押し上げてください。

- 印刷中は、キーボードを閉じないでください。
- 排紙トレイが出ているときは、必ず排紙トレイを戻してからキーボードを閉じてください。
- メモリーカードをセットしたままキーボードを閉じないでください(必ず、メモリーカードを抜いてから、キーボードを閉じてください)。

電源を入れる

重要 ご購入後、はじめて電源を入れるときは、リセット（初期化）、プリンターの調整、時計の時刻合わせなどが必要です。別冊の取扱説明書 入門編の「準備をしましょう」を参照して、必ず行ってください。

ACアダプターを接続する

重要
- ACアダプターは必ずAC100Vのコンセント（通常の家庭用コンセント）に差し込んでください。
- 付属のACアダプター以外は使用しないでください。

⚠ 警告

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。
次のことは必ずお守りください。
- 必ず付属品を使用する
- 電源は、AC100V(50/60Hz)のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない

ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。
- 重いものを乗せたり、加熱しない
- 加工したり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない
- 電源コード／ACアダプターのプラグが傷んだらお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する

ACアダプターについて

濡れた手でACアダプターやプラグに触れないでください。
感電の原因となります。

⚠ 注意

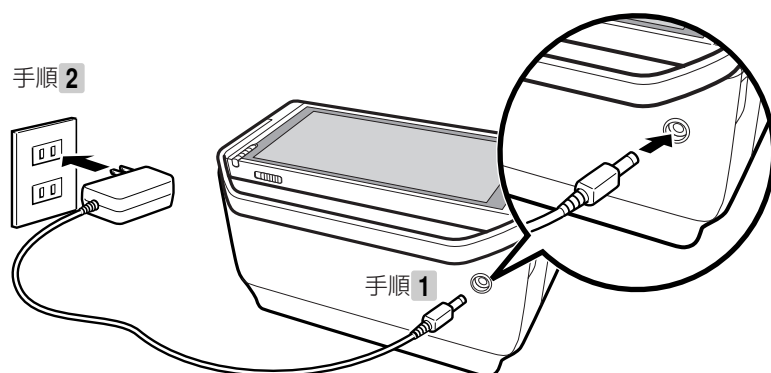
ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。
次のことは必ずお守りください。
- ストーブ等の熱器具に近づけない
- プラグを抜くときは、ACアダプターのコードを引っ張らない(必ずACアダプターを持って抜く)

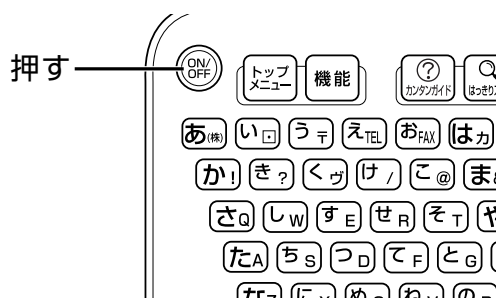
ACアダプターについて

ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。
次のことは必ずお守りください。
- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 旅行などで長期間使用しないときはプラグをコンセントから抜く
- 使用後は本体の電源スイッチを切り、プラグをコンセントから抜く
- プラグは年1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように、乾いた布や掃除機で清掃する
- ACアダプター(特にプラグやジャック部分)の清掃には、洗剤を使用しない

1 付属のACアダプターのコネクターを、本体のACアダプター用端子に差し込みます。

2 ACアダプターのプラグを、ご家庭用のコンセントに差し込みます。

電源を入れる／切る

● 電源を入れるときは

電源が切れている状態で ON/OFF を押してください。

重要
- 「電源を入れる操作」や「電源を切る操作」は、完了するまでに10～20秒かかることがあります。完了するまで、そのまましばらくお待ちください。
- 本機をご使用になるときは、プリントカートリッジがセットされていることを確認してください。例えば、「住所録の作成」だけを行いたいときも、プリントカートリッジをセットした状態で行ってください。

● 電源を切るときは

1 ON/OFF を押して、電源を切ります。

2 表示画面が完全に消えたことを確認します。

3 ACアダプターのプラグを、ご家庭用のコンセントから抜きます。

4 ACアダプターのコネクターを、本体のACアダプター用端子から抜きます。

重要
- 必ず表示画面が完全に消えてからACアダプターを家庭用のコンセントから抜いてください。表示画面が消える前にACアダプターを抜くと登録したデータが消えることがあります。
- 電源を切るときは、必ず、プリントカートリッジ収納部カバーがきちんと閉まっていることを確認してください。プリントカートリッジ収納部カバーが正しく閉められていないと、インクが乾燥してプリントカートリッジが使用できなくなったり、プリンターの故障の原因になることがあります。

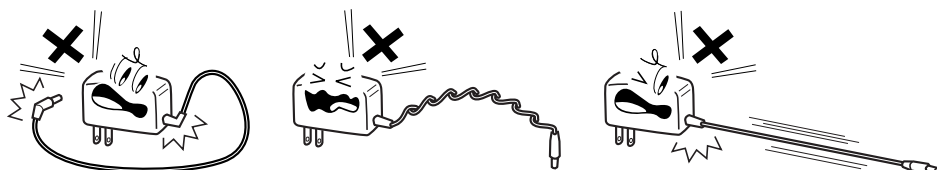
オートパワーオフ

約1時間、キー操作を行わないと自動的に電源が切れます。

スライドショー

写真が保存してあるメモリーカードを本機にセットした状態で、トップメニュー画面表示中に、約6分間、キー操作を行わないと自動的にスライドショー（204ページ）が開始されます。

ACアダプター使用上のご注意

ACアダプターのコードの先端や根元部分は、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
また、コードの先端や根元部分が折り曲げられた状態での保管は避けてください。コードが断線して故障の原因となります。

使用できるメモリーカードと写真のデータ

本機は、メモリーカードに保存してある写真のデータを印刷したり、また本機に登録してある住所録などのデータをまとめてメモリーカードに保存することができます。

使用できるメモリーカード

重要
- 下記以外のメモリーカードを使用すると、本機およびメモリーカードの故障、破損の原因となります。
- 下記のメモリーカードでも、本機やカードの状態によっては認識できない、または正しく動作しない場合があります。
- メモリーカードは、「デジタルカメラ写真のデータ読み込み」および「バックアップデータの保存」「文面やコメントプリントなどの作成物の保存」のときに使用します。本機のメモリー増設用(「住所録の登録件数を増やす」など)としては使用できません。

メモリーカード	最大容量
コンパクトフラッシュ(TYPE I/TYPE II)	8GB
メモリースティック※1	128MB
メモリースティック PRO※1	4GB
メモリースティック デュオ※1	128MB
メモリースティック PRO デュオ※1	4GB
SDメモリーカード	2GB
miniSDメモリーカード※2	2GB
microSDメモリーカード※2	2GB
SDHCメモリーカード	8GB
マルチメディアカード	1GB
xD-ピクチャーカード	512MB
xD-ピクチャーカード Type M	2GB
xD-ピクチャーカード Type H	2GB

※1 マジックゲート機能が必要なデータは扱えません。
※2 専用アダプターに取り付けたあと、本機に挿入してください。

※各カードの形状と挿入方法は、22ページをご覧ください。
※上記メモリーカードでも、ご使用になれない場合があります。
※マイクロドライブ、スマートメディアには対応していません。

● ご購入後はじめて使うとき

ご購入後はじめてメモリーカードを使うときは、使用するデジタルカメラで初期化(フォーマット)してからお使いいただくことをおすすめします。
- メモリーカードを初期化しないで撮影した場合、本機で使用すると「メモリーカードエラー」になることがあります。
- メモリーカードをパソコンで初期化すると、正しく動作しないことがあります。
- メモリーカードを初期化すると、保存されている内容がすべて消えてしまうので、必要のないときは行わないでください。

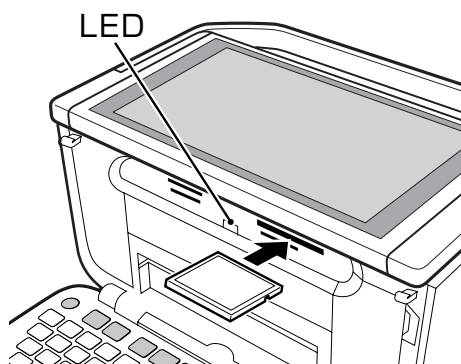
メモリーカードをセットする

重要 • メモリーカードには表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。向きや角度に注意して、確実にセットしてください。
• メモリーカードを使う際は、メモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。

● メモリーカードをセットする

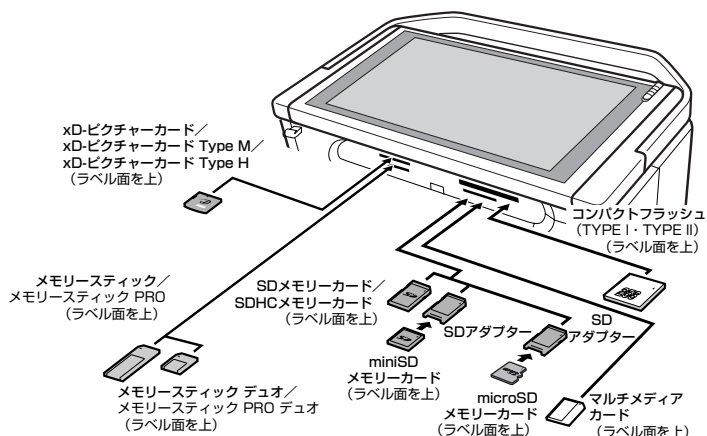
重要 メモリーカードを一度に複数枚セットすることはできません。

1 ON/OFF を押して、電源を入れます。

2 お使いのメモリーカードの挿入口に、メモリーカードを、ゆっくり、しっかり押し込みます。

• メモリーカードが正しくセットされると、LEDが点灯します。
• メモリーカードにアクセス中は、LEDが点滅します。

重要 • メモリーカードは、必要以上に強く押し込まないでください。また、メモリーカードがセットされている状態で、キーボードを閉めないでください。本機およびメモリーカードの故障、破損の原因になります。
• 故障の原因となりますので、メモリーカード挿入口にはメモリーカード（+アダプター）以外のものを入れないでください。
• 万一異物や水がメモリーカード挿入口に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、ACアダプターを抜いて、販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご連絡ください。
• 写真が保存してあるメモリーカードをセットした状態で、トップメニュー画面表示中に、約6分間、キー操作を行わないと自動的にスライドショー（204ページ）が開始されます。

メモリーカードの挿入方向について

メモリーカードを挿入するときの、表裏と前後の方向は次のようになります。お使いのメモリーカードの種類をご確認の上、正しく挿入してください。

※miniSDメモリーカード、microSDメモリーカードは、そのまま使用することはできません。
必ず、SDアダプターに取り付けたあと、本機に挿入してください。
※マジックゲート機能が必要なデータは扱えません。

● メモリーカードを取り出す

重 要 印刷中･メモリーカードに保存中や画面に「メモリーカードを引き抜かないでください」と表示されているときや、LEDが点滅中には、メモリーカードを取り出さないでください。

1 メモリーカードをまっすぐ手前に引き抜きます。

LEDが消えます。

扱える写真のデータ

本機で印刷できる画像はデジタルカメラなどで撮影した画像で以下の条件を満たすものです。ご使用になる機能によって印刷できる写真のサイズが異なりますのでご注意ください。

(1) DCF Exif2.1(JPEG準拠)
(2) 対応ファイルサイズ
　10M Byte以下: 文面
　　コメントプリント
　　シールプリント
　　写真俳句
　　写真カレンダー
　　選んでプリント
　　DPOFプリント
　容量の制約無し: インデックスプリント
(3) 最小画素数　160 × 120 ピクセル

●携帯電話で撮影した写真について
DCF規格対応の携帯電話でも、撮影時の操作方法によってはDCF規格とは異なるフォルダー構成下に写真データが保存される場合があります。このような写真は本機では印刷することはできません。撮影した画像がDCF規格に準拠した形式でメモリーカード内に保存されるように操作してください(撮影した画像が、メモリーカードの「DCIM」フォルダーに保存されます)。また、撮影前にモードの設定が必要な場合があります。詳しくはご使用になる携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

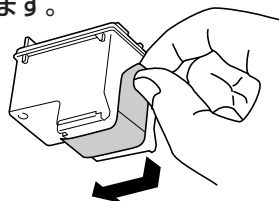
プリントカートリッジのセットと交換のしかた

印刷するときには、プリントカートリッジを使います。

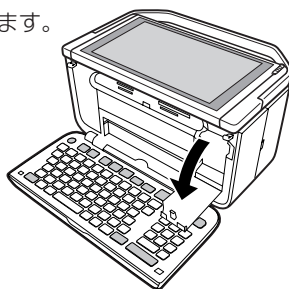
重要　必ず指定のプリントカートリッジをお使いください。(▶▶ 257ページ)

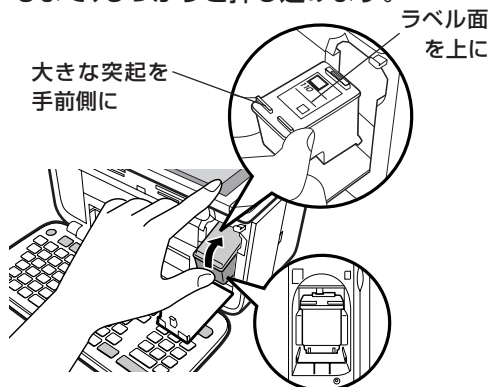
プリントカートリッジをセットする

1 ACアダプターを接続して、電源を入れます(▶▶ 18ページ)。

2 プリントカートリッジについているピンクのタブを引いて、透明のプラスチックテープをはがします。

重要
- 必ず透明のプラスチックテープだけをはがしてください。金色の金属フィルムは絶対にはがさないでください。プリントカートリッジが使用できなくなります。
- 一度はがした透明のプラスチックテープは、絶対に貼り直さないでください。ノズル内のインクが混ざり合い、使用できなくなることがあります。

3 プリントカートリッジ収納部カバーを開きます。

プリンターが動きます。

重要　「可動範囲以上に動かそうとする」などの無理な力を加えないようにしてください。無理な力を加えると、故障や破損の原因となります。

4 プリントカートリッジを「カチッ」と音がするまで、しっかりと押し込みます。

セットした状態

- 正しくセットしないとプリントカートリッジの故障の原因となります。

5 プリントカートリッジ収納部カバーを閉めます。

※カバーが開いていると、エラーが表示されます。

重要　自動的に「プリンターの調整」を行います。プリンター調整用の用紙をセットして画面の指示にしたがって操作してください。
「用紙のセットのしかた」▶▶ 26ページ
「プリンターを調整する」▶▶ 219ページ

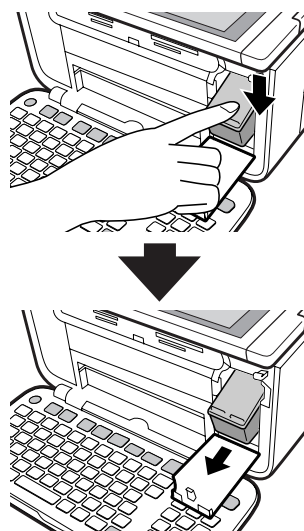
印刷できる枚数（目安）

本機に付属のプリントカートリッジで印刷できる枚数は下記のとおりです。
はがき印刷：約180枚　　標準写真(L判サイズ)：約90枚
※印刷する内容によって、印刷できる枚数は異なります。
※印刷条件の詳細(▶▶ 257ページ)。

プリントカートリッジを交換する

1 ACアダプターを接続して、電源を入れます(▶▶ 18ページ)。

2 プリントカートリッジ収納部カバーを開きます。

3 プリントカートリッジを下に押しながら手前に引きます。

4 新しいプリントカートリッジをセットします。

「プリントカートリッジをセットする」
▶▶ 24ページ

プリントカートリッジ 使用上のご注意

- インクが目に入ったり皮膚に付着しないようにご注意ください。 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。 万一、異状がある場合は、直ちに医師にご相談ください。
- インクを誤って飲まないようにご注意ください。 インクの成分には、硝酸塩が含まれております。 万一、インクを飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- プリントカートリッジは、お子さまの手の届かない所に保管してください。
- プリントカートリッジは、改造および再利用しないでください。 なお、プリントカートリッジの改造やインクの詰め替えなどによって生じたプリンターおよびプリントカートリッジのトラブルについては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 振動や衝撃を与えないでください。また、金属部分には手を触れないでください。
- プリンターに装着するまでは包装を開封せずに、直射日光を避け、常温で保管してください。
- 使用中のプリントカートリッジは、本機に入れたまま保管してください。プリントカートリッジを単体のままで長期間保管すると、インクノズル部分の目詰まりの原因となります。

プリントカートリッジに印刷されている数字の見方

- プリントカートリッジに印刷されている数字は、使用期限です(右のイラストの「2009/12/18」は「2009年12月18日」を表しています)。使用期限までに使い切ってください。
  なお、良質な印刷品質を得るために、使用開始後6ヶ月以内に使い切ることをお勧めします。

資源の節約・有効利用と環境保護のため、使用済みのプリントカートリッジの回収にご協力ください。
プリン写ルでは、日本ヒューレット・パッカード株式会社製のプリントカートリッジを使用しています。
使用済みのプリントカートリッジは、販売店に設置されている日本ヒューレット・パッカード株式会社指定の回収ボックスに入れてください。

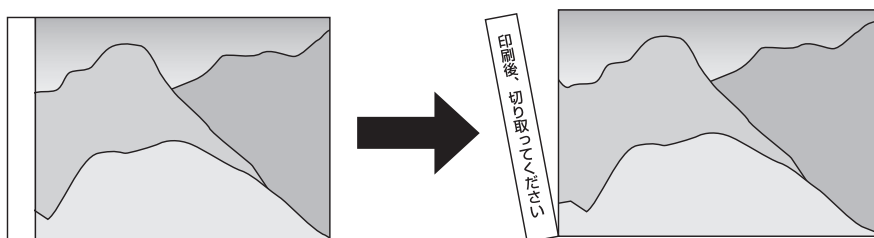
用紙のセットのしかた

印刷する前に用紙をセットします。

使用できる用紙

用紙	サイズ	厚さ	用紙の種類
はがき	(縦)148mm×(横)100mm	官製はがきと同等の厚さで、0.18mm～0.26mmの範囲のもの	●普通官製はがき ●インクジェット用はがき ●フォト光沢はがき
A6	(縦)148mm×(横)105mm	官製はがきと同等の厚さで、0.18mm～0.26mmの範囲のもの	●インクジェット用紙 ●フォト光沢紙 ●普通紙
L判	(縦)127mm×(横)89mm	官製はがきと同等の厚さで、0.18mm～0.26mmの範囲のもの	●インクジェット用紙 ●フォト光沢紙 ●普通紙
2L判	(縦)178mm×(横)127mm	官製はがきと同等の厚さで、0.18mm～0.26mmの範囲のもの	●インクジェット用紙 ●フォト光沢紙 ●普通紙
10×15タブ*2	(縦)165mm×(横)102mm (タブを切り取り後、10×15cm*1)		日本ヒューレット・パッカード株式会社製「アドバンスフォト用紙(光沢)」
シール紙 (16面付け)	(縦)148mm×(横)100mm		別売品「16面分割光沢フォトシール」(PO-165)。257ページの別売品一覧をご覧ください。

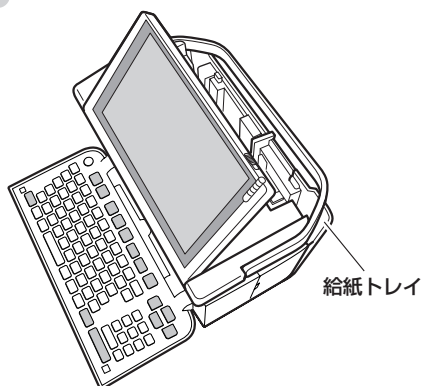
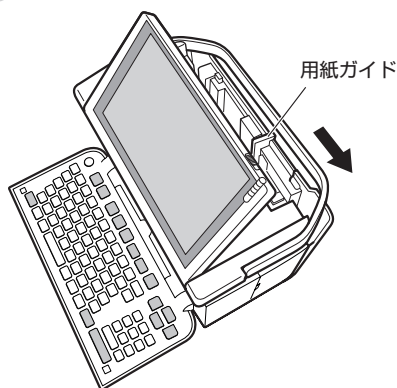
●「タブ付き用紙」とは？

「切り取り可能な部分(タブ)」が付いている印刷用紙のことです。
本機で、10×15cm*1の余白のない写真を印刷するときは、10×15タブをご使用になり、「フチ：なし」を指定して印刷を行ってください。
印刷後にタブを切り離すと、10×15cm*1の余白のない写真ができます。

※1「10×15cm」は、おおよそのサイズです。
※2「10×15タブ」印刷用紙は、下記のものをご使用ください。
《日本ヒューレット・パッカード株式会社 製》
・アドバンスフォト用紙(光沢)

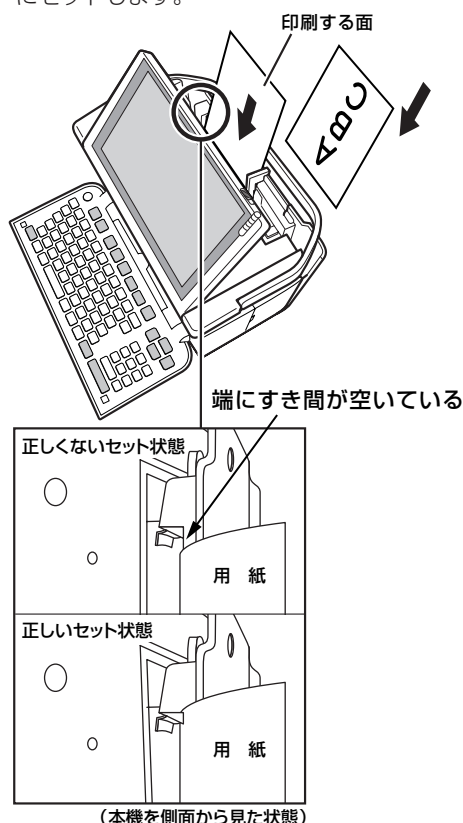
重要
- 使用できる用紙は、用紙のサイズ、厚さおよび種類が上記の表の条件に合っているものだけです。
- コピー用紙などの薄い紙や、形状が不定形な用紙などは、故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 写真店などで注文することができる「写真付きポストカード」（官製はがきに写真が貼り付けられているもの）の宛名面への印刷は、本機ではできません。
  ※用紙詰まりや故障の原因となりますので使用しないでください。

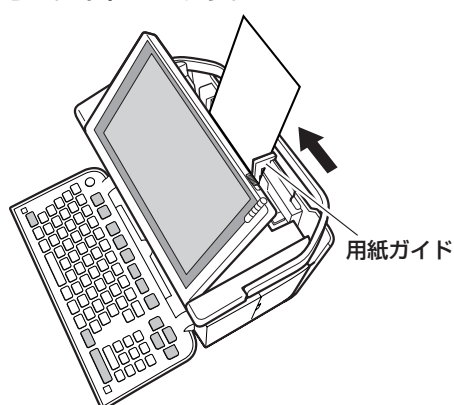
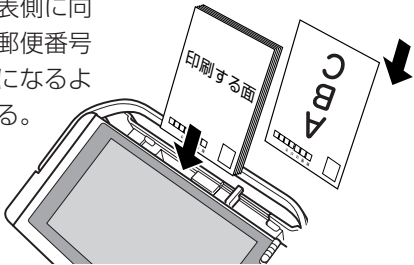
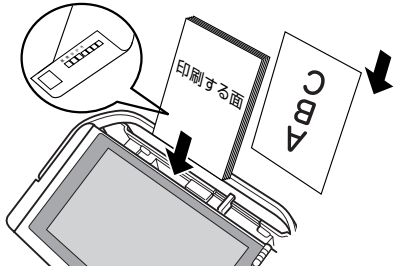
用紙をセットする

重要
- 用紙は、必ず、印刷停止中にセットしてください。印刷中に用紙の出し入れは行わないでください。故障の原因になります。
- 用紙どうしが静電気ではりついているときは、間に空気を入れるなどしてからセットしてください。
- 印刷中に用紙を追加することはできません。
- 「16分割光沢フォトシール」「インクジェット写真用年賀葉書」は、1枚ずつセットしてください。
- フォト光沢はがきは、印刷時に、用紙どうしが貼り付きやすい場合、1枚ずつセットしてください。
- 印刷途中に絶対に用紙を引き抜かないでください。
- 用紙に反り･曲がりがあると用紙がつまる原因となります。用紙の反り･曲がりを直してから本体にセットしてください。
- 用紙をセットする際は、印刷面を表側にして、必ず用紙の左端を挿入口の左端に沿わせてセットしてください。セット後は、必ず「用紙ガイド」を用紙に当たる位置まで動かしてください。

1 給紙トレイを開きます。

2 用紙ガイドを拡げます。

3 印刷面を表側にして、用紙の左端を挿入口の左端に沿わせ、軽く止まるまで差し込みます（詳細は、28ページ「用紙をセットする向きについて」をご覧ください）。

- 一度にセットできる枚数は、20枚までです（印刷枚数は99枚まで設定可能です）。
- タブが付いている用紙は、タブが上になるようにセットします。

（本機を側面から見た状態）

このとき、上のイラストのように、端にすき間が空かないようにしてください。
正しくセットしないと、用紙が曲がって挿入され、正しく印刷できないことがあります。

4 用紙ガイドが用紙に当たる位置までつまみをスライドさせます。

- 正しくセットしないと印刷の際に、用紙が斜めに給紙されたり故障の原因となります。

5 排紙トレイを引き出します。

●用紙をセットする向きについて

印刷の種類や用紙の種類によって、用紙をセットする方向や表裏を確認して、正しくセットしてください。

用紙の種類	印刷の種類	セット方向
はがき	宛名印刷	印刷する面を表側に向けて、宛名の郵便番号の位置が下側になるようにセットする。
	文面印刷	印刷する面を表側に向けて、宛名の郵便番号の位置が下側になるようにセットする。
	選んでプリント DPOFプリント コメントプリント インデックスプリント 写真俳句 写真カレンダー	印刷する面を表側に向けてセットする。
A6	選んでプリント DPOFプリント インデックスプリント	印刷する面を表側に向けてセットする。

用紙の種類	印刷の種類	セット方向
L判	選んでプリント DPOFプリント コメントプリント インデックスプリント 写真俳句	印刷する面を表側に向けてセットする。
2L判	選んでプリント DPOFプリント コメントプリント インデックスプリント 写真俳句 写真カレンダー	印刷する面を表側に向けてセットする。
10×15タブ	選んでプリント DPOFプリント インデックスプリント	印刷する面を表側に向けて、タブが付いている側を上側に向けてセットする。 タブ 印刷する面 ABC
シール紙(16面付け)	シールプリント	・印刷する面を表側に向けてセットする。 ・1枚ずつセットする ※一度に複数枚セットすると正しく印刷できない場合があります。

※光沢紙に写真を印刷する場合は光沢面を表側に向けてセットしてください。
※フォト光沢はがきを使用する場合は、1枚ずつセットしてください。

印刷するときの注意事項

印刷前の注意事項

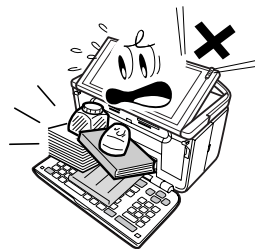
●本体は平らな場所に置いてください。

●プリントカートリッジが確実にセットされていることを確認してください。セットされていないと印刷の動作は実行されません。

●プリントカートリッジ収納部カバーが閉じていることを確認してください。

●用紙排出口にものがないことを確認してください。

●排紙トレイを引き出しておいてください。

●フォト光沢はがきなどに両面印刷をする場合は、「宛名」→「写真印刷」の順番で印刷操作をしてください。
ただし、写真印刷面にスジ状のキズが付着する場合があります。

用紙セット時の注意事項

●用紙挿入口、本体内部に用紙が残っていないことを確認してから、用紙をセットしてください。

●用紙を用紙挿入口の奥まできちんと当たるようにセットしてください。

●印刷に適している用紙については、「使用できる用紙」(26ページ)の説明をご覧ください。

●次のようなはがきや用紙を使わないでください。

- 封筒
- 往復はがき
- 写真付きポストカード(写真店などで注文できる官製はがきに写真が貼り付けられたもの)
- 表面が凸凹やザラザラのもの
- 折れ曲がったり、反りの激しいもの
- 一般の官製はがきにくらべて、極端に厚い紙や薄い紙、腰の強い用紙
- 樹脂シートなどのインクを吸収しないもの
- コピー用紙・カレンダーなど指定以外の用紙や、不定形に切断した用紙
- 極端に、用紙どうしの、すべりがわるい(貼り付きやすい)用紙

●用紙挿入口に一度にセットできる用紙は、官製はがきの厚さの場合で「20枚まで」です(印刷枚数は「99枚」まで設定可能です)。

●「16分割光沢フォトシール」「インクジェット写真用年賀葉書」は、1枚ずつセットしてください。複数枚セットすると正常に印刷できない場合があります。
※光沢でない「インクジェット紙年賀郵便はがき」では、20枚までセットできます。

●市販のフォト光沢はがきは、印刷時に、用紙どうしが貼り付きやすい場合があります。そのときは、1枚ずつセットしてください。

●写真店などで注文することができる「写真付きポストカード」(官製はがきに写真が貼り付けられているもの)の宛名面への印刷は、本機ではできません。
※用紙詰まりや故障の原因となりますので使用しないでください。

印刷中の注意事項

●本体を傾けたり、振動を与えたりしないでください。
印刷不良の原因となります。

●印刷中に用紙をひっぱったり、押し込んだりしないでください。
印刷不良や故障の原因となります。

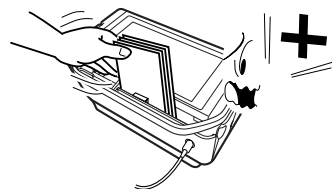
●用紙排出口をふさがないでください。
用紙がつまったり、故障の原因となります。

●印刷中は必ずキーボードを開き、排紙トレイを出した状態でお使いください。

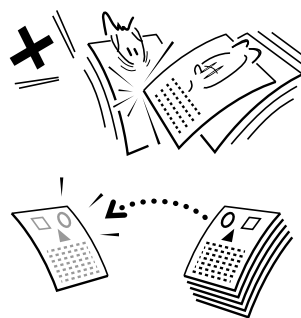
●印刷中には用紙を追加することはできません。
印刷中に用紙を追加すると、用紙がつまったり、故障の原因になります。
用紙を追加するときは、印刷中のすべての用紙の印刷が終わって「用紙切れ」というメッセージが表示されたのを確認してから行ってください。

●21枚以上(官製はがきの厚さの場合)印刷するときは、印刷中のすべての用紙の印刷が終わって「用紙切れ」というメッセージが表示されたのを確認したあと、用紙をセットして印刷を行ってください。

●印刷途中に絶対に用紙を引き抜かないでください。

●印刷中は絶対に用紙挿入口及び用紙排出口のローラー部に指を近づけないでください。
指がローラー部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

印刷後の注意事項

●印刷したものをひっかいたり、こすり合わせたりしないでください。
キズや汚れの原因となります。

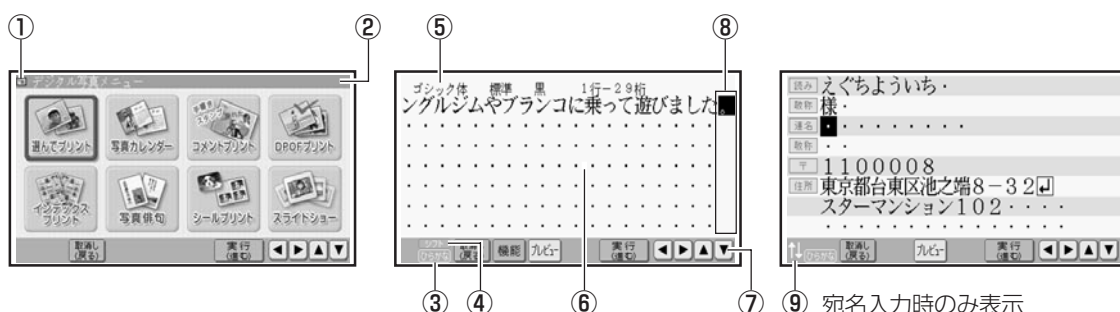
●印刷したものを重ねて放置したり、水にぬらしたり、ほかの紙にこすったりしないでください。印刷が写ってしまうことがあります。

印刷後のお手入れ

●本機のプリンターはインクジェット方式です。印刷を行っていると、プリントカートリッジ収納部周辺や製品本体にインクが付着する場合があります。インクが付着したときは、水を浸してかたく絞ったガーゼなどで拭き取ってください。

●長時間使用しないときは、キーボードと排紙トレイを閉めて、タッチパネル保護カバーを付けて保管してください。

●本機を長期間使用しないときは、プリントカートリッジ収納部カバーをしっかりと閉めて、直射日光のあたらない場所で、高温多湿を避けて、保管・管理してください。
※プリントカートリッジは、本機に入れたまま保管してください。プリントカートリッジを単体のままで長期間保管すると、インクノズル部分の目詰まりの原因となります。

画面の見かた

本機の画面にはいろいろな情報が表示されます。

①	機能表示： ・・・宛名作成機能のときに表示されます。 ・・・文面作成機能のときに表示されます。 ・・デジタル写真プリント機能のときに表示されます。
②	モード表示行：現在表示している画面の情報を示しています。
③	モード表示：入力についての状態を示しています。
④	シフトかな小キーが押されたことを示しています。
⑤	文字修飾表示行：文字の修飾内容などを示しています。
⑥	作成画面：打ち込んだ文字や文書を表示します。
⑦	操作ガイド：操作に必要な情報や、タッチペンで操作するためのボタンが表示されます。
⑧	禁則桁：組み合わせ作成、オリジナルはがき作成、コメントプリント、写真俳句(応用作成のみ)で文面を作成しているとき、通常の入力桁の右側に禁則桁が設けられます。テキスト入力に禁則処理(、。，．を行頭に配置しないようにする)を加え、文字の自然な配置を実現しています。
⑨	↑↓マーク：画面からかくれている選択項目や内容があるときに表示されます。

● カーソルのはたらきと動かしかた

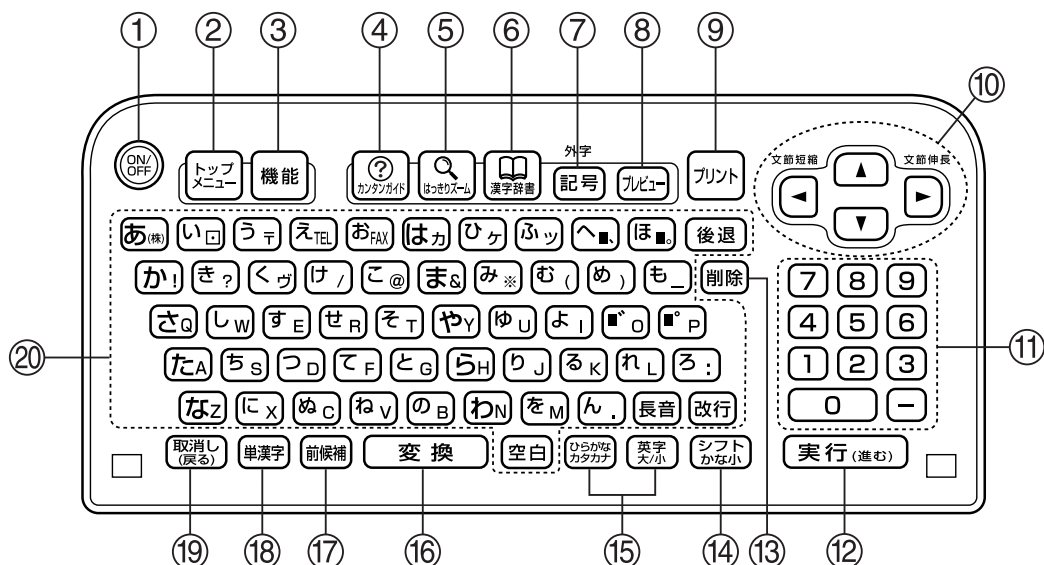
●文面や宛名面に文字を入れているときに、■が表示されます。これは位置を示した印で、カーソルと呼びます。カーソルが合っている位置で文字キーを押すと文字が入り、削除を押すと文字が消えます。

●カーソルは▲▼◀▶を押して動かします。

▲	上にカーソルが移動する
▼	下にカーソルが移動する
◀	左にカーソルが移動する
▶	右にカーソルが移動する

●画面にかくれている文字を見るためには、▲▼◀▶を押してかくれている部分にカーソルを動かします。これをスクロールといいます。

キーボードと主なキーの働き

キーボードには、たくさんのボタンがついています。ボタンのことを、この取扱説明書では「キー」と呼んでいます。
ここでは主なキーの使いかたについて説明しています。

タッチペンでの操作について

本機は、タッチペンで画面(タッチパネル)をタッチして操作することもできます。
タッチペンを使った操作については、「タッチペンの使いかた」を参照してください。

▶▶35ページ

①	ON/OFF：電源を入れたり切ったりするときに押します。
②	トップメニュー：トップメニュー画面を表示するときに押します。
③	機能：いろいろな設定をするときに押します。
④	カンタンガイド：カンタンガイドメニューを表示するときに押します。
⑤	はっきりズーム：入力した文字を大きく拡大して確認したいときに押します。
⑥	漢字辞書：画数や部首などから漢字を入力したいときに押します。
⑦	外字 記号：キーに印刷されていない記号を入れるときや、自分で文字を作ったり、作った文字を入れたりするときに押します。
⑧	プレビュー：印刷の仕上がり状態を確認するときに押します。
⑨	プリント：印刷するときに押します。
⑩	▲▼◀▶：文字が入る位置を示した■や、文字編集などのときに範囲を指定する■を動かすときに押します。また、項目などを選択するときにも押します。
⑪	数字キー：数字を入れるときに押します。
⑫	実行(進む)：操作を進めていくときに押します。
⑬	削除：文字を間違えたときに押します。
⑭	シフト かな小：キーの上にピンクの文字で書かれている機能を使うときに押します。
⑮	ひらがな カタカナ 英字 大/小：ひらがなやカタカナ、またはアルファベットの入力を切り換えるときに押します。
⑯	変換：ひらがな入力した文字を漢字に変換するときに押します。
⑰	前候補：漢字変換するとき、まえに表示されていた候補の文字を表示させたいときに押します。
⑱	単漢字：1文字ずつ漢字を変換するときに押します。
⑲	取消し(戻る)：操作を取り消したり、中止するときに押します。
⑳	文字キー：文字を入れるときに押します。

■キーのあらわしかたについて

例 れ L を押したあとに続けて 実行(進む) を押すとき…

↓

れ L 実行(進む) と押します。

●キーの上にピンク色で書かれている機能を使うには…
シフト かな小 を押したあとに続けてピンク色で書かれている下のキーを押します。 外字 記号

例 「外字」の機能を使うとき…

↓

シフト かな小 外字 記号 と押します。

●操作手順の中で、「▲▼◀▶を押して…」と書かれているときは、▲▼◀▶のいずれかを押してください。4つのキーすべてを押す必要はありません。

タッチペンの使いかた

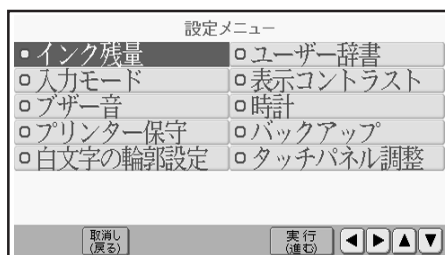
本機は、キーボードに加えて、付属のタッチペンで画面(タッチパネル)をタッチして操作することもできます。
ここでは基本的なタッチペンでの操作について説明しています。

重要
- タッチするときは、力を入れる必要はありません。軽く触ってください。
- タッチパネルの表面を強く押したり、力を込めてタッチしたりしないでください。タッチパネルに傷が入ったり、割れたりすることがあります。

●画面に表示された項目を選択する

「文面」や「宛名」などの機能、写真やイラストなどをタッチして選択することができます。

トップメニューで「設定」をタッチすると

青色の枠が「設定」に移動します
この状態で、再度、「設定」をタッチすると

「設定」画面が表示されます

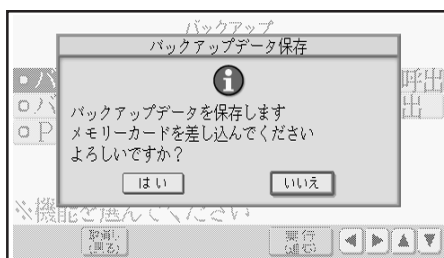
- 青色の枠がない項目をタッチすると、タッチした項目に青色の枠が移動します。
- 青色の枠がある項目をタッチすると、タッチした項目の機能に進むことができます。

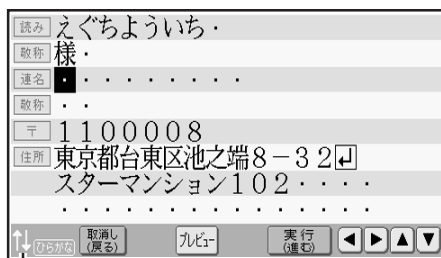
キーボードの▲▼◀▶で項目を選び、実行(進む)を押したときと同じように動作します。

●操作を進める／操作を取り消す

画面に表示された[実行]や[取消]をタッチして、キーボードの[実行(進む)]や[取消し(戻る)]を押したときと同じように操作を進めたり取り消すことができます。

状況に応じて、タッチパネルで使用できる機能のボタンが表示されます。
[実行]や[取消]のほか、[プリント](印刷時)や[範囲を広く]・[回転](写真の切り抜き時)などをタッチして操作することもできます。

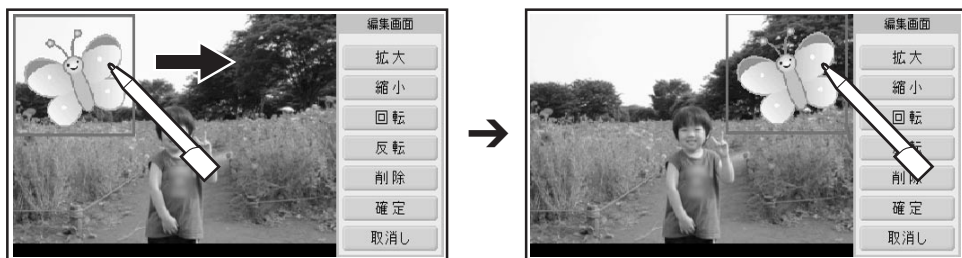
また、操作を進めるかどうか確認する画面で、[はい]または[いいえ]をタッチして青色の枠を移動させた後、[はい]をタッチして操作を進めたり、[いいえ]をタッチして操作を取り消すこともできます。

●画面をスクロールする

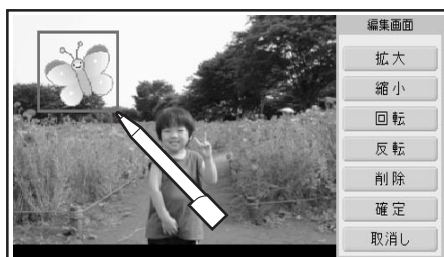
画面に表示された「▼」や「▲」をタッチして、画面をスクロールすることができます。

この ↑↓ は、タッチしても無効です

「◀」や「▶」をタッチして、画面を切り替えることもできます。

●写真枠などを移動する

写真を切り抜くときの写真枠やコメントプリントのスタンプなどを、ドラッグ(タッチしたままタッチペンを移動すること)して移動することができます。

➔

スタンプをタッチしたままドラッグして移動

また、コメントプリントのスタンプなどは、スタンプの枠の四隅をドラッグすることで、拡大したり縮小したりすることができます。

スタンプの枠の四隅をタッチしたままドラッグして拡大／縮小

●設定項目を変更する

設定項目を変更するときに、反転部分をタッチすると、タッチする度に表示が切り替わります。

反転部分をタッチする度に表示切り替え

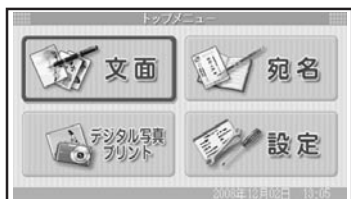
●その他の操作

その他、タッチペンでは次のような操作ができます。

- 数値の入力項目の左右に表示された[◀]や[▶]をタッチして、数値を増減させる
- 文字を入力する項目をタッチして選択する
- 文字の入力位置(カーソルの位置)をタッチして指定する
- 設定項目の選択／非選択を切り替える
- 表示コントラスト画面で[◀濃く]や[薄く▶]をタッチして、コントラストを調整する
  ▶▶216ページ
- コメントプリントの操作をする(手書きの追加、スタンプなどの大きさや位置の調整など)
  ▶▶169ページ

宛名などの文字の入力を、タッチペンで手書き入力することはできません。

操作の進めかた

本機の操作を始めるには、まず トップメニュー を押します。
トップメニュー を押すと、トップメニュー画面が表示されます。
ここから、操作が始まります。

トップメニュー画面

1 ON/OFF を押して、電源を入れます。

トップメニュー画面が表示されます。

2 トップメニュー画面では、機能の内容やできることがイラストで表示されています。これをアイコンと呼びます。あなたがしたいことを選んでください。

どうやって選ぶの？

アイコンが青色の枠で囲まれているのがわかりますか？

▲▼◀▶のいずれかを押すと、青色の枠が動きます。あなたが選びたいアイコンに青色の枠を合わせてください。

↓

3 したいことのアイコンを選んだら、実行(進む) を押します。

これで、あなたが選んだメニューにしたがって、操作が進みます。

4 操作を進めていくと、次々と選択画面が表示されます。

選択を間違えてしまったり、前の画面に戻りたいときは、取消し(戻る) を押します。
また、トップメニュー を押して、トップメニュー画面から操作をやり直すこともできます。

選択画面について

▲▼◀▶を押して、あなたがしたい項目に青色の枠を合わせてください。

「拡張」は本機の将来の拡張用に設けてある項目です。

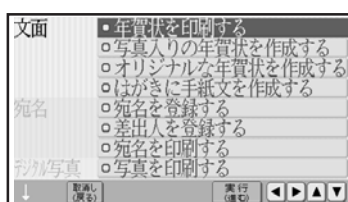
タッチペンでアイコンなどをタッチして、青色の枠を移動することができます。
上の手順 **2** の画面でタッチペンを使って青色の枠付きのアイコンを選ぶと、手順 **3** の 実行(進む) を押す操作をしたことになります。

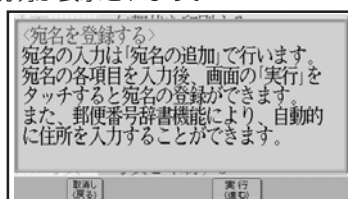
カンタンガイド

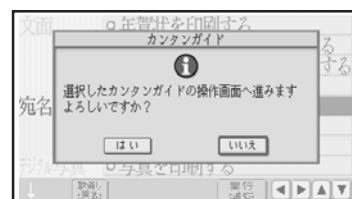
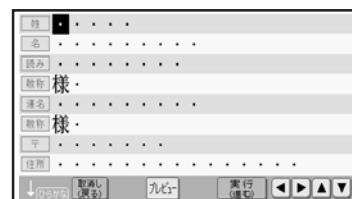
[?カンタンガイド] を押すと、操作の説明を表示することができます。また、操作の説明を確認した後、その機能へジャンプすることもできます。

重要 カンタンガイドは以下の画面から表示することができます（その他の画面から表示することはできません）。

- トップメニュー、文面メニュー、宛名メニュー、デジタル写真メニュー
- カンタン作成のジャンル選択画面、オリジナルはがき作成の作成方法選択画面
- コメントプリントメニュー、写真俳句メニュー、写真カレンダーメニュー

1 [?カンタンガイド] を押します。

2 [▲][▼] で「宛名」項目の「宛名を登録する」を選び、[実行（進む）] を押します。

操作内容の説明が表示されます。

3 内容を確認したら、[実行（進む）] を押します。戻りたいときは [取消し（戻る）] を押します。

カンタンガイドジャンプ確認画面が表示されます。

4 [◀][▶] で「はい」を選び、[実行（進む）] を押します。

「宛名の追加」の入力画面にジャンプします。

以降の操作は「宛名を登録する」の手順 **6** からを参照してください。

▶▶ 75ページ

※ カンタンガイドでは宛名入力後、ファイル1に登録されます。他の宛名ファイルは選べません。

カンタンガイドのジャンプ後の操作一覧

カンタンガイドで内容を確認して、各機能へジャンプした後の操作については、以下の参照先の説明をご覧ください。

	項　目	ジャンプ後の操作内容
文面	年賀状を印刷する	「カンタン作成」の「イラスト入りのデザインを選ぶ」の手順 2 ▶▶ 121ページ
	写真入りの年賀状を作成する	「カンタン作成」の「写真入りのデザインを選ぶ」の手順 3 ▶▶ 122ページ
	オリジナルな年賀状を作成する	「組み合わせ作成」の「フォーマットを選ぶ」の手順 3 ▶▶ 134ページ
	はがきに手紙文を作成する	「オリジナルはがき作成」の「フォーマットを選ぶ」の手順 4 ▶▶ 148ページ
宛名	宛名を登録する※1	「宛名を登録する」の手順 6 ▶▶ 76ページ
	差出人を登録する	「差出人を登録する」の手順 3 ▶▶ 91ページ
	宛名を印刷する※2	「1人ずつ指定して印刷する」の手順 7 ▶▶ 104ページ
デジタル写真	写真を印刷する	「選んでプリント」の手順 4 ▶▶ 161ページ
	写真の一覧を印刷する	「インデックスプリント」の手順 4 ▶▶ 164ページ
	写真とカレンダーを印刷する	「写真カレンダーを作る」の手順 4 ▶▶ 194ページ
	写真と俳句を印刷する	「写真俳句を作る」の手順 4 ▶▶ 183ページ
	写真にスタンプや文字を入れる	「コメントプリント」の手順 4 ▶▶ 170ページ
	写真をシールに印刷する	「シールプリント」の手順 4 ▶▶ 180ページ
	写真を画面で確認する	「スライドショー」が実行されます。 ▶▶ 204ページ

※１：カンタンガイドでは宛名入力後、ファイル１に登録されます。他の宛名ファイルは選べません。
※２：カンタンガイドではファイル１に登録されている宛名のみが対象になります。他の宛名ファイルは選べません。

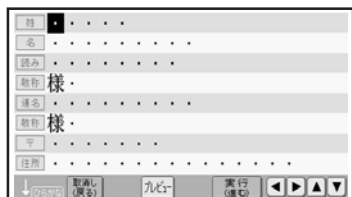
第 2 章

文字の入力

文字入力の前に知っておいていただきたいこと

文字の入れかたの要点を簡単に紹介します。詳しい操作を知りたいときは、参照ページをご覧ください。また、文字を入力する方法には、「かな入力」と「ローマ字入力」の2種類があります。「かな入力」と「ローマ字入力」を切り替えたい場合は、215ページをご覧ください。

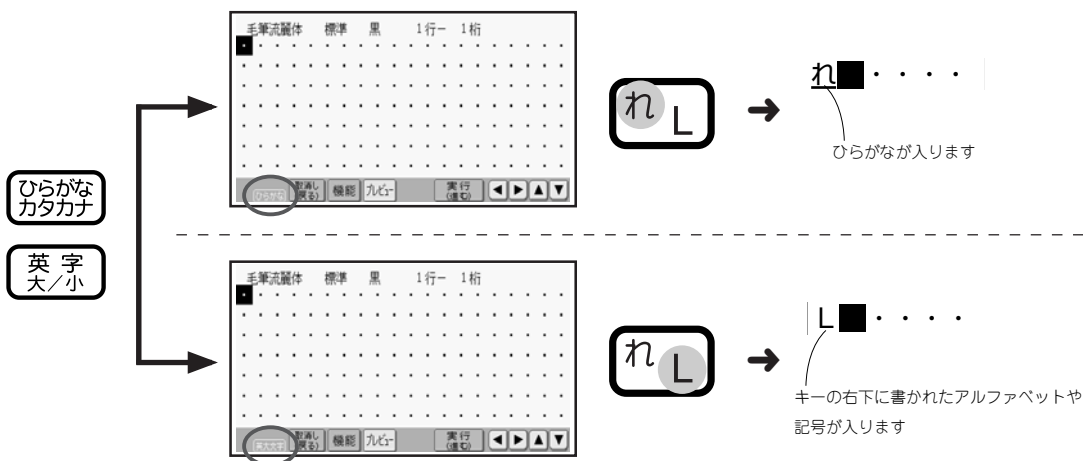
文字を入れる画面は…

例 宛名作成画面(▶▶ 75ページ)

文章編集画面(▶▶ 138ページ)

禁則桁の表示

組み合わせ作成(▶▶ 132ページ)、オリジナルはがき作成(▶▶ 146ページ)、コメントプリント(▶▶ 169ページ)、写真俳句の「応用作成」(▶▶ 187ページ)で文面を作成しているとき、2行以上の文章を入力すると、自動的に禁則処理が行われ、行頭には行頭禁則文字(「、」「。」「,」「.」)と改行マーク(「↵」)は配置されません。入力画面上では、行末に禁則桁が表示され、文字の入力がない場合には、空白になります。

文字キーの使いかた

1つのキーには2つの文字が書かれています。
[ひらがな/カタカナ] [英字 大/小] を押して、どの文字を入れるのかを選びます。

入力する文字の種類の切り替えかた（▶▶44ページ～56ページ）

画面左下の表示によって、入力できる文字の種類が変わります。

ひらがな入力

「きく」を入れます

▼

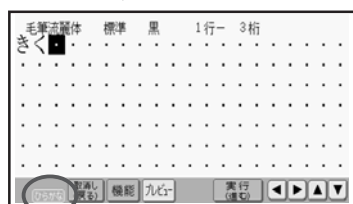
［ひらがな/カタカナ］を何回か押して、画面左下に「ひらがな」を表示させる

▼

▼

カタカナ入力

「キク」を入れます

▼

［ひらがな/カタカナ］を何回か押して、画面左下に「カタカナ」を表示させる

▼

▼

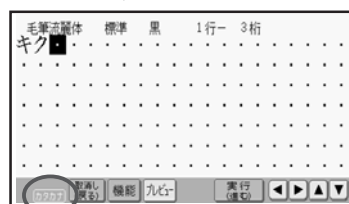
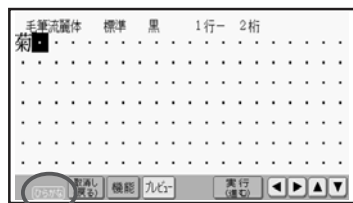
漢字入力

「菊」を入れます

▼

［ひらがな/カタカナ］を何回か押して、画面左下に「ひらがな」を表示させる

▼

▼

アルファベット入力

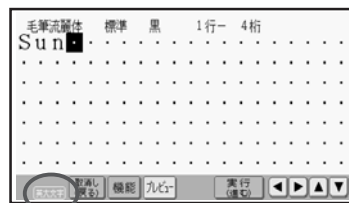
「Sun」を入れます

▼

［英字 大/小］を何回か押して、画面左下に「英大文字」を表示させる

▼

［ち S］［シフト かな小］［ゆ U］［シフト かな小］［わ N］

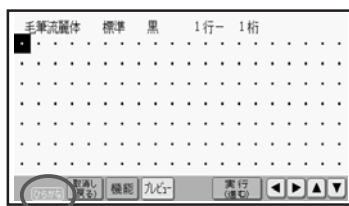
▼

●数字を入れるときは、数字キーを押します。数字は、どの状態でも入れることができます。

ひらがな・カタカナを入れる

ひらがな・カタカナの入れかたを説明します。
※[長音](ー)と[-](ハイフン)を間違えないように、注意してください。

ひらがなを入れる

例 さくら

1 [ひらがな カタカナ]を何回か押して、画面左下に「ひらがな」を表示させます。

■をカーソルといいます。文字が入る位置を示します。

2 [さQ][く ヮ][らH]と押します。
ローマ字入力のときは、[ちS][たA][るK][ゆU][せR][たA]と押します。
「文字の入力方法（入力モード）を切り替える」▶▶215ページ

3 [実行(進む)]を押します。

キーを押し間違えてしまったら…

- **文字を間違えていたら**…57ページ「間違えた文字を直す」
- **文字が抜けていたら**…58ページ「文字の抜けているところに文字を追加する」
- **文字を消したいときは**…57ページ「間違えた文字を消す」
- **はじめからやり直したいときは**…63ページ「文字をまとめて消す」

画面に同じ文字がいくつも表示されたときは

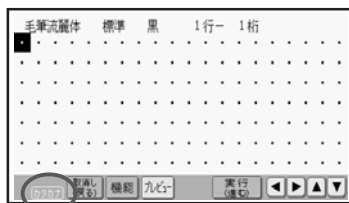
キーを長く押し続けていると、その文字が連続して表示されます。そのときは[取消し(戻る)]を押します。文字が画面から消えます。
キーは、ポンッと軽くたたくように、押してください。

重要 [取消し(戻る)]を押して消すことができるのは、文字が青色で表示されているときだけです。
数字キーを押し続けたときや、文字を確定したあとは、消したい部分にカーソルを合わせて[削除]を押します。

カタカナを入れる

例 **サクラ**

1 ひらがな/カタカナ を何回か押して、画面左下に「カタカナ」を表示させます。

2 さQ くヴ らH と押します。

ローマ字入力のときは、ちS たA るK ゆU せR たA と押します。

カタカナはキーを押したと同時にその文字に確定されます。

「ぱ」や「ゃ」などを入れる

キーの上に印刷されていない文字を入力するときは、このページの表を見て入力してください。
また、本機の前面上部には「かな入力」の場合の入力例が印刷されており、キーボードを開いた状態のとき、下表に記す文字の入力の方法を、簡単に確認することができます。
ローマ字入力のときの文字の入れかたは、241ページの「ローマ字入力対応表」をご参照ください。

文字の例	呼び名	かな入力のとき	ローマ字入力のとき
は	清音	はカ	らH たA
ば	濁音	はカ ゛O	のB たA
ぱ	半濁音	はカ ゜P	゜P たA
ゃ	拗音	シフトかな小 やY	にX やY たA
っ	促音	シフトかな小 つD	にX そT ゆU
。	句点	シフトかな小 ほ。	ほ。
、	読点	シフトかな小 へ、	へ、

小文字や「々」「ゞ」、「ゐ」「ゑ」などの旧仮名遣いの文字などは、「記号」の「入れにくい文字」で入れることができます（▶▶56ページ）。

文字の入力　ひらがな・カタカナを入れる

漢字を入れる

漢字を入れるには、まずその漢字の「読み」をひらがなで入れます。例えば、「花」は「はな」と入れます。ひらがなから漢字に変えることを「変換」といいます。［変換］を何回か押し、使いたい漢字が表示されたら、［実行(進む)］を押して、ほかの漢字に変わらないように確定します。
目的の漢字に変換できないときは、一文字ずつ漢字を入力します。
「目的の漢字に変換されないとき」 ▶▶49～53ページ

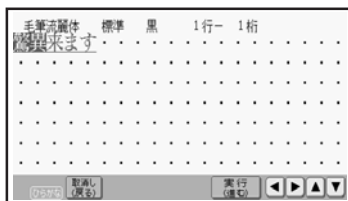
漢字を入れる

例 今日行きます

1 「きょういきます」とひらがなで入れます。

2 ［変換］を押します。

↓

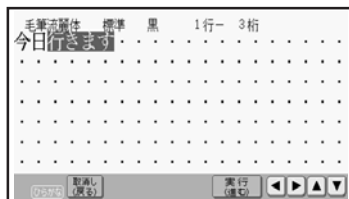
「きょうい」と「きます」という2つの言葉と認識したため、「驚異」と変換されます。
「驚異」が反転します。

※1つ目の文節が目的の漢字に正しく変換されているときは、［▶］を押して正しく変換されていない文節に反転を移動してください。最後の文節まで目的の漢字に正しく変換されているときは、［▶］を押して最後の文節に反転を移動して［実行(進む)］を押してください。漢字が確定します。

3 ［シフト かな小］［◀］と押します。
「きょうい」を「きょう」という言葉に区切るためです。
「きょう」が「今日」に変換されました。

重要 ［シフト かな小］［◀］はキーボードから入力します。

4 ［実行(進む)］を押します。
「今日」が確定されます。
「いきます」という言葉が残ったと認識したため、「生きます」に変換されました。

5 変換 を何回か押して、「行きます」にします。

変換 を押すたびに、「いきます」の候補が次々に表示されます。

6 「行きます」になったら、実行(進む) を押します。

「行きます」が確定されます。

同じ読みのある漢字(同音異義語)を選ぶ

複数の漢字が当てはまる「読み」(同音異義語)から漢字を選ぶ方法を説明します。

例 **講演**

1 「こうえん」とひらがなで入れます。

2 変換 を押します。

「こうえん」に合った漢字の候補が表示されます。

3 変換 を何回か押して、「講演」にします。

変換 を押すたびに、「こうえん」に合った漢字が次々と表示されます。

4 「講演」になったら、実行(進む) を押します。

「講演」が確定されます。

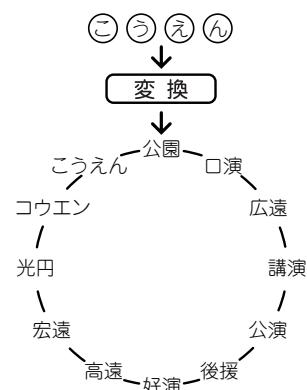
学習機能について

「こうえん」という読みを「講演」で確定したとします。次回「こうえん」という読みで変換すると、「講演」が一番はじめに表示されます。これは、前回使った漢字を本機が覚えているためです。
このように、前回使った漢字を最初に表示することを学習機能といいます。

ひらがなを漢字にするルール

「よみ」を入れる　　漢字に変える　　確定する

こうえん　変換 ➜　後援　実行(進む) ➜　後援

確認するまえに、さらに 変換 を押すと、「こうえん」に当てはまるほかの候補が表示されます。前候補 を押すと、前に表示されていた候補の文字が表示されます。

変換中に文字を間違えたら…

変換中に文字の間違いに気がついたら、 取消し(戻る) を押してください。

変換前の「よみ」の状態に戻る
文字を訂正することができます

入力した「よみ」が消える
はじめから、入力し直すことができます

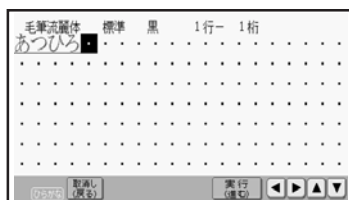
思いどおりの漢字に変換されないのはなぜ？

次のようなことが考えられます。
- 「週(しゅう)」を「しゆう」と入力している
- 「図(ず)」を「づ」と入力している

目的の漢字に変換されないとき①（単漢字変換）

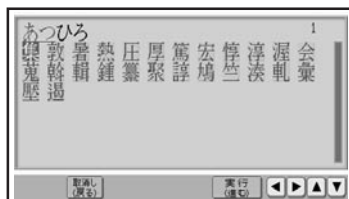
むずかしい漢字や珍しい固有名詞などは、［変 換］を押しても正しく変換されません。このような場合、1文字ずつ目的の漢字に変換します。

例 敦廣（あつひろ）

1 「あつひろ」をひらがなで入れます。

2 ［変 換］を何回か押します。

何回押しても、「敦廣」に変換されません。

3 ［単漢字］を押します。

「あつ」に合った漢字がいくつか表示されます。

4 ［▲］［▼］［◀］［▶］を何回か押して、目的の漢字を選び、［実 行(進む)］を押します。

「敦」が確定されます。

5 手順 3 から 4 と同様の操作をして目的の漢字（廣）を選び、［実 行(進む)］を押します。

目的の漢字に変換されないとき②（漢字辞書）

漢字の読みや、画数などから漢字を呼び出すことができます。
漢字の呼び出しかたは、4種類あります。

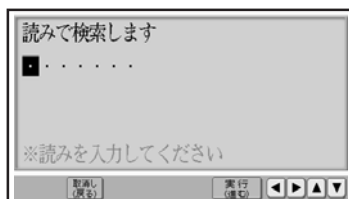
- 「読み検索」　読みから該当する漢字を呼び出します。
- 「総画数検索」　総画数から該当する漢字を呼び出します。
- 「部首検索」　部首から該当する漢字を呼び出します。
- 「区点コード検索」　漢字の一覧表から入力したい文字を見つける（JIS区点コード）。

漢字辞書機能は文字が入力できる画面および文面、宛名（「読み」および「郵便番号」入力時を除く）の各入力画面から入ることができます。ただし、文字が未確定のときや、漢字に変換している途中では漢字辞書は使えません。

読みから呼び出す

例 「挙」という漢字を呼び出す

1 入力したい位置にカーソルを合わせて、［漢字辞書］を押します。

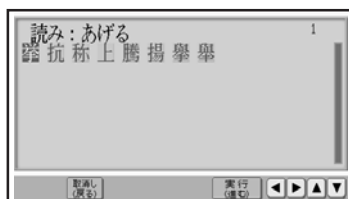
2 ［▲］［▼］［◀］［▶］で「読み検索」を選び、［実行（進む）］を押します。

3 「あげる」と入れて、［実行（進む）］を押します。

「あげる」と読む漢字の一覧が表示されます。
データに続きがあるときは［▲］［▼］を押すと続きを見ることができます。

- 最大7文字まで入力できます。

4 ［▲］［▼］［◀］［▶］を押して挙にし、［実行（進む）］を押します。

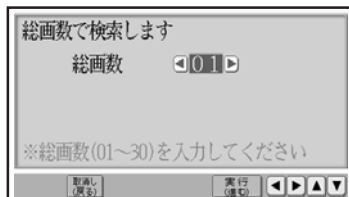
「挙」という漢字についての詳細が表示されます。

5 ［実行（進む）］を押します。

「挙」という漢字が入ります。

総画数から呼び出す

例 「挙」という漢字を呼び出す

1 入力したい位置にカーソルを合わせて、[漢字辞書]を押します。

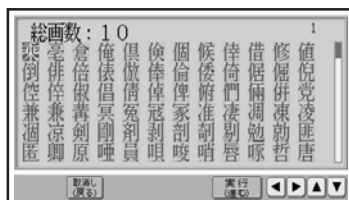
2 [▲][▼][◀][▶]で「総画数検索」を選び、[実行(進む)]を押します。

3 [1][0]と入れて、[実行(進む)]を押します。

[◀]または[▶]で画数を指定することもできます。

10画の漢字の一覧が表示されます。

4 [▲][▼][◀][▶]を押して挙にし、[実行(進む)]を押します。

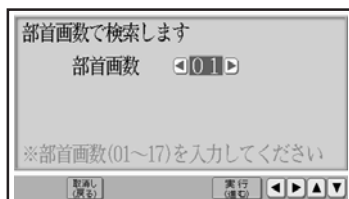
「挙」という漢字についての詳細が表示されます。

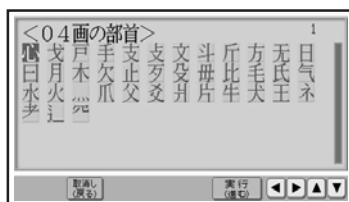
5 [実行(進む)]を押します。

「挙」という漢字が入ります。

部首から呼び出す

例 「挙」という漢字を呼び出す

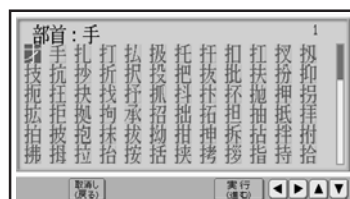
1 入力したい位置にカーソルを合わせて、[漢字辞書]を押します。

2 [▲][▼][◀][▶]で「部首検索」を選び、[実行(進む)]を押します。

3 「挙」の部首の「手」は4画なので[4]と押し、[実行(進む)]を押します。

4画の部首の一覧が表示されます。
[◀]または[▶]で部首の画数を指定することもできます。

部首の候補が他にもあるときは[▲][▼]を押すと続きを見ることができます。

4 [▲][▼][◀][▶]を押して手にし、[実行(進む)]を押します。

「手」が部首の漢字の一覧が表示されます。

5 [▲][▼][◀][▶]を押して挙にし、[実行(進む)]を押します。

「挙」という漢字についての詳細が表示されます。

6 [実行(進む)]を押します。

「挙」という漢字が入ります。

部首がわかりにくい漢字については本来の部首以外でも呼び出せるものがあります。
(例:「岩」は「山」でも「石」でも呼び出せます。)

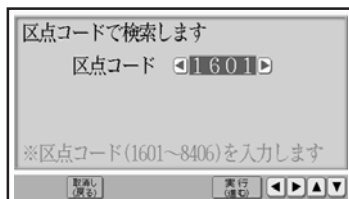
漢字の一覧表から入力したい文字を見つける(JIS区点コード)

ワープロやパソコンなどのコンピューター機器は、漢字を番号で管理しています。番号は「区」と「点」に分かれていて、漢字1つに対して4つの数字が割り当てられています。コード番号はJIS規格で定められており、これをJIS区点コードといいます。

例 「挙」という漢字を呼び出す

1 入力したい位置にカーソルを合わせて、[漢字辞書]を押します。

2 [▲][▼][◀][▶]で「区点コード検索」を選び、[実行(進む)]を押します。

3 「挙」の区点コードは「2183」なので[2][1][8][3]と押し、[実行(進む)]を押します。

「挙」という漢字についての詳細が表示されます。

「内蔵漢字一覧」

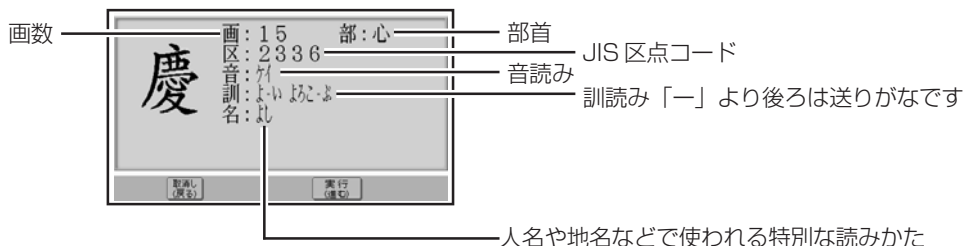
▶▶244ページ

4 [実行(進む)]を押します。

「挙」という漢字が入ります。

- 読みでの検索は「音読み」、「訓読み」、「人名や地名などで使われる特別な読みかた」のいずれでも検索できます。
- フォントのデザインにより同じ漢字でも字の形が異なることがあります。
- 部首は代表的なものを採用しています。学説によっては別の部首とするものもあります。
- JIS外の漢字の区点コードは「----」と表示されます。
- JIS規格には収録されていても、多くの辞書で読みも意味も不明として取り扱われている漢字は「音義未詳」と表示されます。
- 漢字辞書機能で呼び出した場合は、漢字の学習機能(47ページ)ははたらきません。
- 文字が入力されたときは、そのときのカーソル位置のサイズや色などに合わせて入力されます。
- 単位の名称を漢字で表すもの(米:メートル、弗:ドルなど)は訓読みに含め、ひらがなで表示しています。

● 漢字辞書詳細表示について

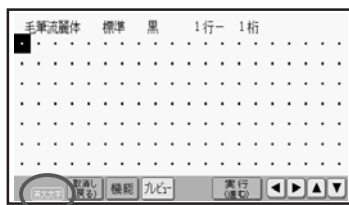
呼び出した漢字については、次のような詳細な情報が表示されます。

アルファベットを入れる

アルファベット入力の方法は、かな入力・ローマ字入力どちらでも操作は同じです。

アルファベットの大文字を入れる

例 AKI

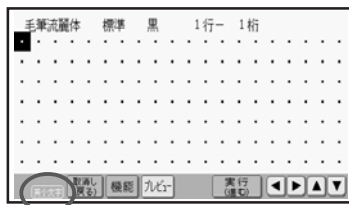
1 [英字 大/小] を何回か押して、画面左下に「英大文字」を表示させます。

2 [たA][るK][よI] と押します。

アルファベットはキーを押したと同時にその文字に確定されます。

アルファベットの小文字を入れる

例 aki

1 [英字 大/小] を押して、画面左下に「英小文字」を表示させます。

2 [たA][るK][よI] と押します。

アルファベットはキーを押したと同時にその文字に確定されます。

大文字と小文字の入力を切り替えるには

画面左下に「英大文字」が表示されているときに [シフト かな小] を押すと、小文字が入力できます。また、画面左下に「英小文字」と表示されているときに [シフト かな小] を押すと大文字が入力できます。

,（カンマ）.（ピリオド）を入れるには

画面左下が「英大文字」または「英小文字」となっているときに、次のキーを押します。

カンマ：[へ、]　　ピリオド：[ん。]

記号や入力しにくい文字(ゑ、ヴなど)を入れる

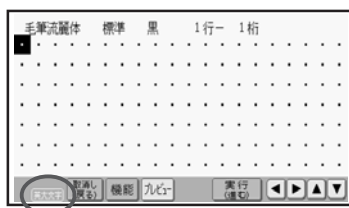
普通の文字のほかに、いろいろな記号を入れることができます。

キーに印刷されている記号を入れる

普通の文字のほかに、キーに印刷されているいろいろな記号を入れることができます。記号を入れるときは、アルファベットが入る状態にしてから入れます。

例 〒

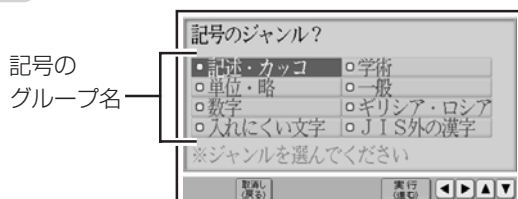
1 **[英字 大/小]を押して、画面左下に「英大文字」または「英小文字」を表示させます。**

ローマ字入力になっているときは、この操作は行う必要はありません。

2 **[う 〒]を押します。**

キーに印刷されていない記号や入力しにくい文字（ゑ、ヴなど）を入れる

記号は、8つのグループに分かれています。238ページの「記号一覧」を見ながら、使いたい記号がどのグループに入っているかを確かめてください。

例 ★（グループ：一般）

1 [記号] を押します。

2 [▲][▼][◀][▶]で「一般」を選び、[実行(進む)]を押します。

3 [▲][▼][◀][▶]を何回か押して「★」を探します。

4 [実行(進む)]を押します。

文字を間違えたときは

文字を間違えて入れたときの直しかたを説明します。

間違えた文字を直す

文字を直すときは、間違った文字を消してから、そのまま正しい文字を入れます。

例 「ゆきこ」を「ゆうこ」に直す

1 ◀ ▶ を何回か押して、直す文字にカーソルを合わせます。

2 削除 を押します。

「き」が削除され、「こ」がつまります。

3 正しい文字を入れ、実行(進む) を押します。

「う」が「こ」の前に入ります。
すでに入っている文字を消さずに、新しい文字が追加されます。

間違えた文字を消す

文字を1文字ずつ消すときの方法を説明します。

例 「ひっここし」の「こ」を消して「ひっこし」に直す

1 ◀ ▶ を何回か押して、消したい文字にカーソルを合わせます。

2 削除 を押します。

「ひっこし」になります。続けて文字を入れるときは、文章の終わりまでカーソルを移動させます。

※最後に入れた文字を消すときは 後退 を押します。

文字の抜けているところに文字を追加する

例 「あた」を「あきた」にする

1 ◀ ▶ を押して、追加するところにカーソルを合わせます。

2 文字を入力して、実行(進む) を押します。

すでに入っている文字を消さずに、新しい文字が追加されます。

「文字をまとめて消す」こともできます。(▶▶ 63ページ)

文字を修飾する

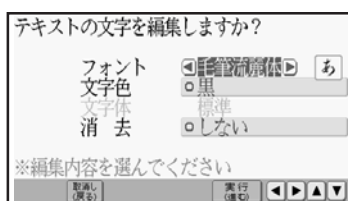
本機は、文面の「見出し」(▶▶135ページ)と「テキスト」(▶▶138・149ページ)で書体(フォント)や文字の形を指定したり、色を変えることができます。

文字の書体を変える(フォント)

文字を入力できる画面になっていることを確認してください。

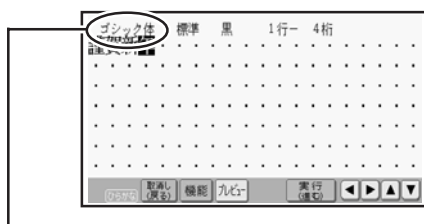
あ　あ　あ　あ

ゴシック体　丸ゴシック体　明朝体　毛筆楷書体　毛筆流麗体

1 文字を入れてから、[機能] を押します。

2 [▲][▼] で「フォント」を選びます。

3 [◀][▶] で書体を選び、[実行(進む)] を押します。

4 [▲][▼][◀][▶] で書体を変えたい最初の文字を選び、[実行(進む)] を押します。

5 **▲▼◀▶で書体を変えたい最後の文字を選び、実行(進む)を押します。**

指定した書体の名称が表示されます(印刷すると指定した書体で印刷されます)。

重要 毛筆流麗体は他のフォントに比べて文字が小さくデザインされています。文面のテキストに利用する場合はご注意ください。

- 書体を指定した文字のすぐ前に文字を追加すると、追加した文字もその書体になります。

例 あいうえお ➜ あいうえかきくけこお

丸ゴシック体を指定　　追加した文字も丸ゴシック体となる

- 文字が何もない部分に書体を指定すると、そのあとに入れる文字すべてがその書体になります。

※「外字」(68ページ)で作成した文字に、書体を指定することはできません。

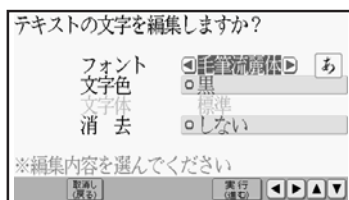
文字の色を変える(文字色)

文面の「見出し」と「テキスト」で文字を入力できる画面になっていることを確認してください。

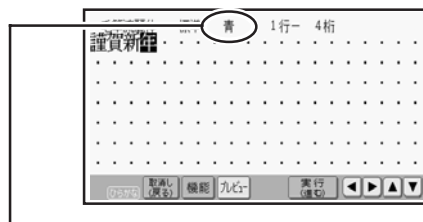
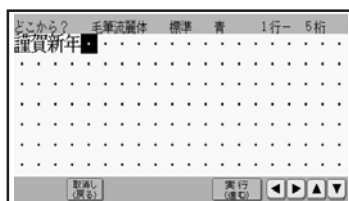
●指定できる色

黒　赤　緑　青　桃色　空色　灰色　白

1 文字を入れてから、機能を押します。

2 ▲▼で「文字色」を選びます。

3 ◀▶で色を選び、実行(進む)を押します。

4 ▲▼◀▶で色を変えたい最初の文字を選び、実行(進む)を押します。

5 ▲▼◀▶で色を変えたい最後の文字を選び、実行(進む)を押します。

指定した色名が表示されます(印刷すると指定した色で印刷されます)。

文字色の「白」はコメントプリントで写真の上に文字を合成する場合にご利用ください。
文字色が「白」の場合は、文字に黒色の輪郭がつきます。輪郭をつけたくないときは、「白色の文字に輪郭をつけないようにする」(221ページ)をご覧ください。

※白い文字部分はインクによる印刷をしないことによって、その部分の紙の地色が見えるように印刷するもので、白いインクで印刷するものではありません。

※輪郭をつけないようにした場合は、文面など白い背景の上に白い文字を配置しても、何も印刷されません。

文字の形を変える（文字体）

文面の「見出し」と「テキスト」で文字を入力できる画面になっていることを確認してください。

標準

白抜き

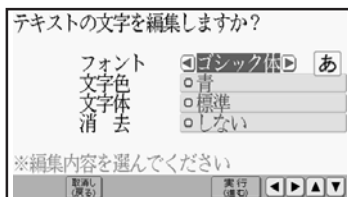
影付き

立体

太文字

1 文字を入れてから、機能を押します。

2 ▲▼で「文字体」を選びます。

3 ◀▶で文字の形を選び、実行(進む)を押します。

4 ▲▼◀▶で文字の形を変えたい最初の文字を選び、実行(進む)を押します。

5 ▲▼◀▶で文字の形を変えたい最後の文字を選び、実行(進む)を押します。

指定した文字体の名称が表示されます（印刷すると指定した文字体で印刷されます）。

- 文字体を指定した文字を標準の文字に戻すときは、手順**3**で「標準」を選びます。
- 「テキスト」に文字体を指定すると、文字によってはきれいに印刷されないことがあります。はがきなどに印刷する前に、必ず試し印刷を行って、仕上がりを確認してください。

※「毛筆流麗体」（89ページ）と「外字」（68ページ）で作成した文字に、文字体を指定することはできません。